



『足相撲』
嘉村礎多 著
講談社文芸文庫
「業苦・崖の下」所収



『蜻蛉玉』
内田百閒 著
ちくま文庫
「内田百閒集成 15 蜻蛉玉」所収



『故郷』
前田河廣一郎 著
改造社
「新選前田河廣一郎集」所収

掘りだしものカタログ 5
1万字×小説
CONTENTS

はじめに 9
シリーズのご案内 10
凡例 10



『母』
加能作次郎 著
講談社文芸文庫
「世の中へ・乳の匂い」所収



『父の死』
川崎長太郎 著
講談社文芸文庫
「抹香町・路傍」所収

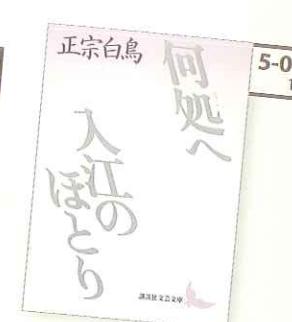


『馳』
石上玄一郎 著
未知谷
「石上玄一郎小説作品集成 第一巻」所収



『線路』
廣津和郎 著
中央公論社
「廣津和郎全集 第一巻」所収

『砲兵中尉』
松岡謙 著
イー・ディー・アイ
「松岡謙 三編」所収



『塵埃』
正宗白鳥 著
講談社文芸文庫
「何處へ・入江のほとり」所収



『虹』
高浜虚子 著
苦楽社
「ちくま日本文学 008 太宰治」所収



『黄金風景』
太宰治 著
ちくま文庫
「ちくま日本文学 008 太宰治」所収



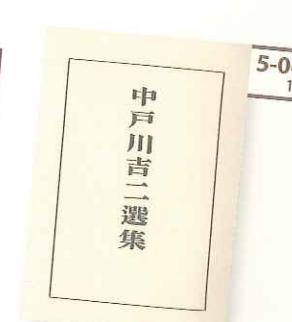
『水仙』
長見義三 著
新宿書房



『自殺者』
藏原伸二郎 著
奥武文芸会
「藏原伸二郎小説全集 全一巻」所収



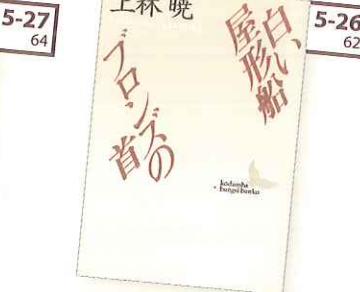
『椿』
里見淳 著
講談社文芸文庫
「初舞台・彼岸花」所収



『犬に顔なめられる』
中戸川吉二 著
渡辺新生社 (本扉)
「中戸川吉二選集」所収



『針』
木山捷平 著
永田書房
「木山捷平ユーモア全集 全一巻」所収



『白い屋形船』
上林暁 著
講談社文芸文庫
「白い屋形船・ブロンズの首」所収



『南京小僧』
深沢七郎 著
筑摩書房
「深沢七郎集 第一卷」所収



『螺旋』
高見順 著
勁草書房
「高見順全集 第十一卷」所収



『髪』
幸田文 著
ちくま文庫
「ちくま日本文学 005 幸田文」所収



『饗宴』
織田作之助 著
講談社
「織田作之助全集 6」所収



5-16
42
6



『無光映画館』
鈴木志郎康 著
青土社
「oh today! 嘰吐泥」所収



『十一月』
野呂邦暢 著
冬樹社
「十一月 水晶」所収



『りんご』
谷川俊太郎 著
ランダムハウス講談社文庫
「ペ ショートショート集」所収



『浄徳寺さんの車』
小沼丹 著
未知谷
「小沼丹全集 第二卷」所収



『おししのくびはなぜあかい』
石井桃子 著
岩波書店「石井桃子集 2 山のトムさん
ふしぎなたいこ」所収



『服』
梅崎春生 著
沖積舎
「梅崎春生全集 第三卷」所収



5-19
48
第三卷



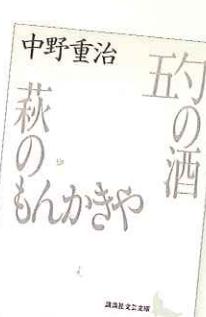
『メルシー』
山田稔 著
講談社文芸文庫
「残光のなかで」所収



『空襲のあと』
色川武大 著
文春文庫
「怪しい来客簿」所収



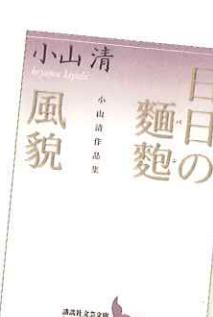
『月影』
小田嶽夫 著
朝日ソノラマ
「現代作家掌編小作家集 下」所収



『萩のもんかきや』
中野重治 著
講談社文芸文庫
「五勺の酒・萩のもんかきや」所収



『おかしな狂人』
椎名麟三 著
冬樹社
「椎名麟三全集 7」所収



『日日の麵麺』
小山清 著
講談社文芸文庫
「日日の麵麺・風貌」所収



5-22
54
第三卷



『くるりくろりくろり』
松山巖 著
幻書房



『君が代は千代に八千代に』
高橋源一郎 著
文春文庫
「君が代は千代に八千代に」所収



『ある話』
小島信夫 著
新潮社
「新潮」2000年1月号掲載



『彼女の町と、彼女の細羊』
村上春樹 著
講談社文庫
「カンガルー日和」所収



『国旗が垂れる』
尾辻克彦 著
中央公論社
「国旗が垂れる」所収



『冬の幻』
飯島耕一 著
文藝春秋
「冬の幻」所収



『純の道』
杉山平一 著
ビレッジプレス
「BOOKISH」第10号掲載



『指輪』
石田千 著
角川書店
「部屋にて」所収



『二一ト』
糸山秋子 著
角川文庫
「ニート」所収



『越路吹雪』
辻征夫 著
思潮社
「現代詩文庫155 続・辻征夫詩集」所収



『雪の日』
大西巨人 著
講談社文芸文庫
「五里霧」所収



『春のホタル』
安岡章太郎 著
新潮社
「夕陽の河岸」所収



『日付の数だけ言葉が』
青木淳悟 著
早稻田文学編集室
第十次「早稻田文学」0号掲載



『ロッカールーム』
宮崎百合子 著
新潮社
「少女@ロボット」所収



『寸劇・明日へのシナリオ』
福永信 著
講談社
日本文藝家協会編「文学2007」所収



『階段』
川上弘美 著
講談社
「ハヅキさんのこと」所収



『乳やらずの縁』
伊藤比呂美 著
朝日文庫
「日本ノ靈異ナ話」所収



『栗とズメ蜂』
後藤明生 著
柳原出版
「日本近代文学との戦い」所収

はじめに

本書では、1万字以内で書かれた小説を紹介している。原稿用紙にして25枚。文字の組み方にもよるが、文庫本で15ページ強、単行本で12ページ強、文芸誌の誌面で8ページ強以内の長さになる。

1万字というとキリがないようだが、原稿用紙25枚という依頼の仕方は少ないらしく、短くとも30枚程度の作品が多くなったようと思う。要するに、1万字は、中途半端な長さということになるのかもしれない。

ここに集められた作品は、作家たちがその力・特色を充分に發揮している作品だけではない。先へ展開していく前に終わったり、その長さの特性に気づかないまま、できそこないの感をただよわせるものすらある。

しかし、作家というものはたぶん、いつも力を振るつているわけではない。力を抜いたわけでもないのに筆が滑って傑作とはいがたい作品を生む。こうした作品に、作家の「第一の力」以外のものを見出すことができ。また、作家のじたばたした姿を見ていておしさを感じる。

なお、55編の作品紹介はすべて書き下ろしによるもの。作家紹介の一部は『日本現代小説大事典』(明治書院)、『いますぐ読みたい!!(新時代)』作家ファイル100』(同)から借用させていただいた。感謝いたします。

小峰慎也



『誰も映っていない』
中原昌也著
文藝春秋
「ニートピア 2010」所収



『使者』
多和田葉子著
新潮社
「新潮」2008年1月号掲載



『戦争花嫁』
川上未映子著
太田出版
第十次「早稲田文学」1号掲載



『化石キャンディー』
山崎ナオコ著
講談社
「論理と感性は相反しない」所収

文学館ガイド

- 1 総合文学館 123
2 作家記念館 137

Index 152

付録